

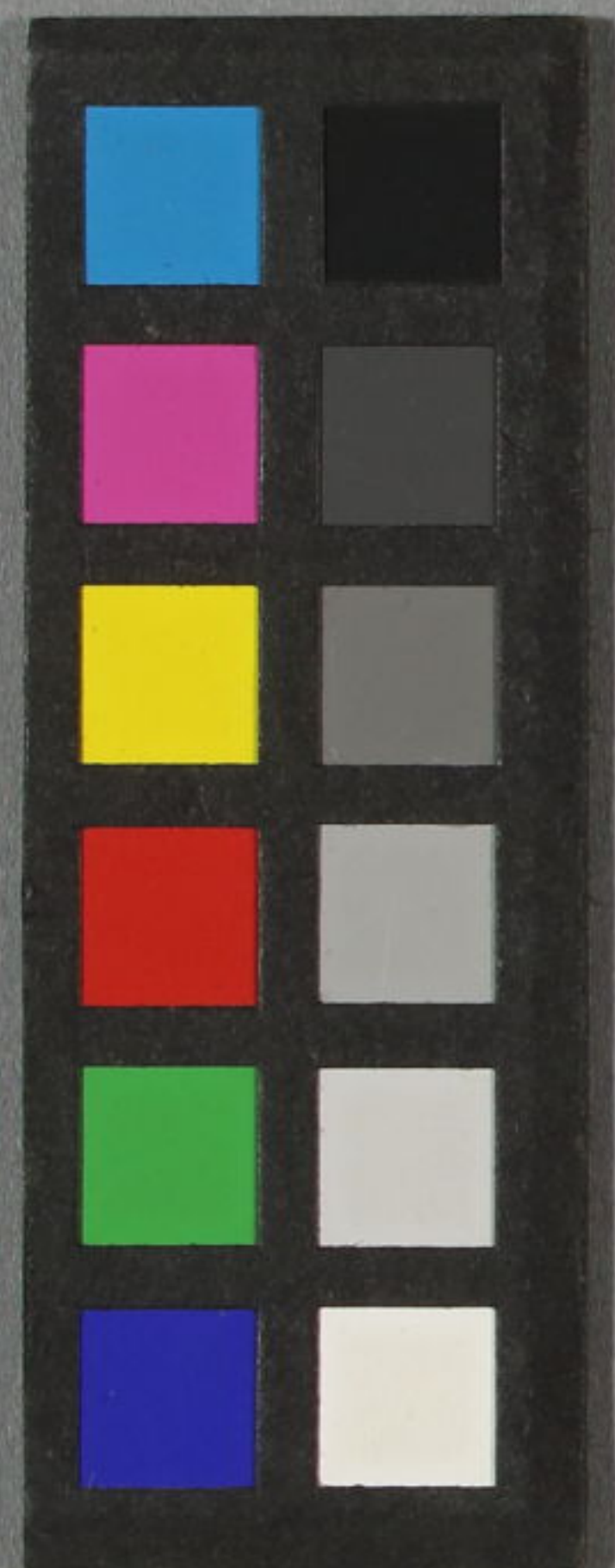
小女郎蜘蛛怨苧環

下

^ 13

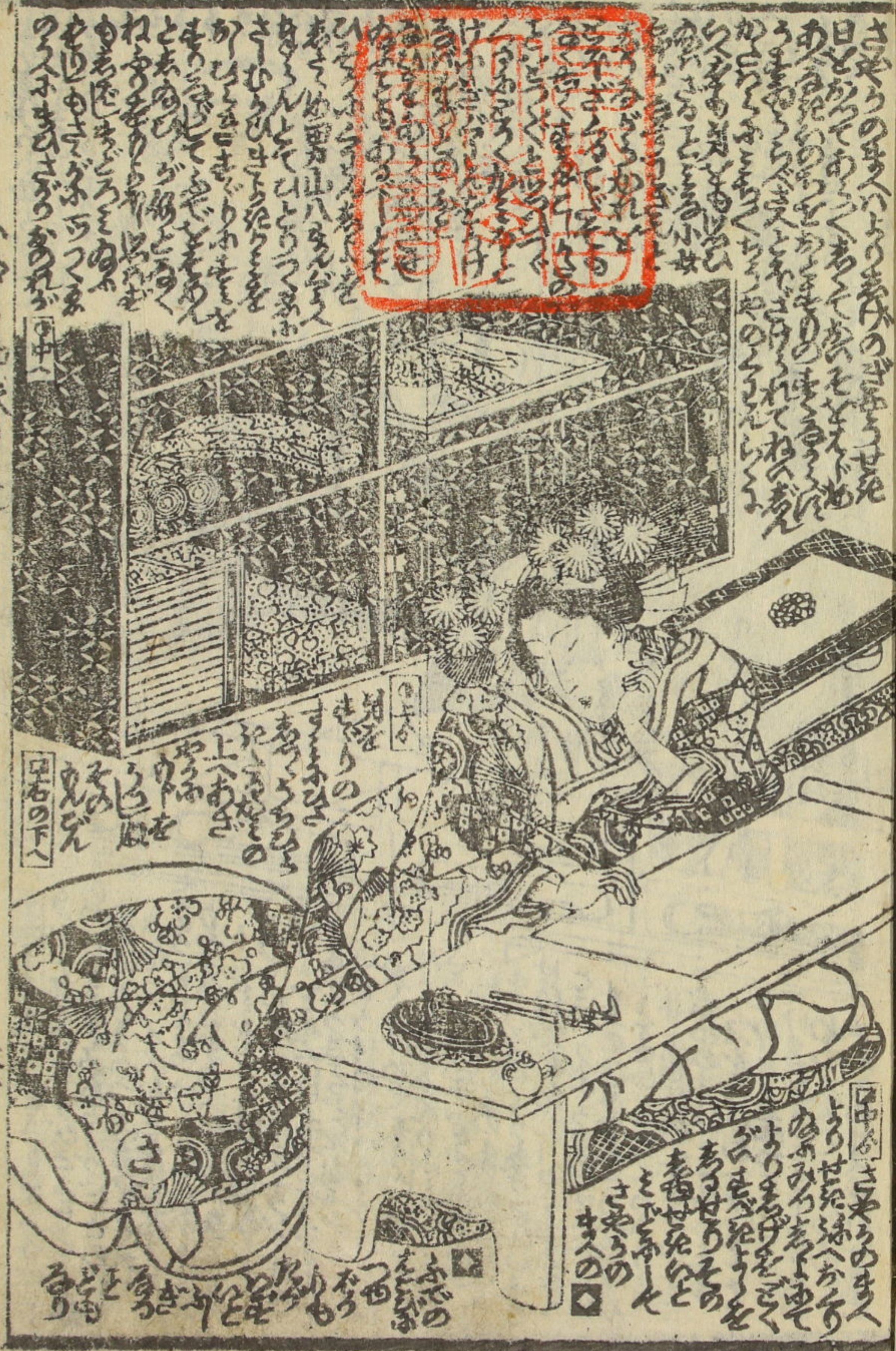
3790

2



七之卷

門へ13  
號3790  
卷 2



小のしめしめ口へ

さやりのまへより...  
あつた山八...  
さかひ...  
かひ...  
と...  
ね...  
お...  
を...  
の...

あつた山八...  
さかひ...  
かひ...  
と...  
ね...  
お...  
を...  
の...

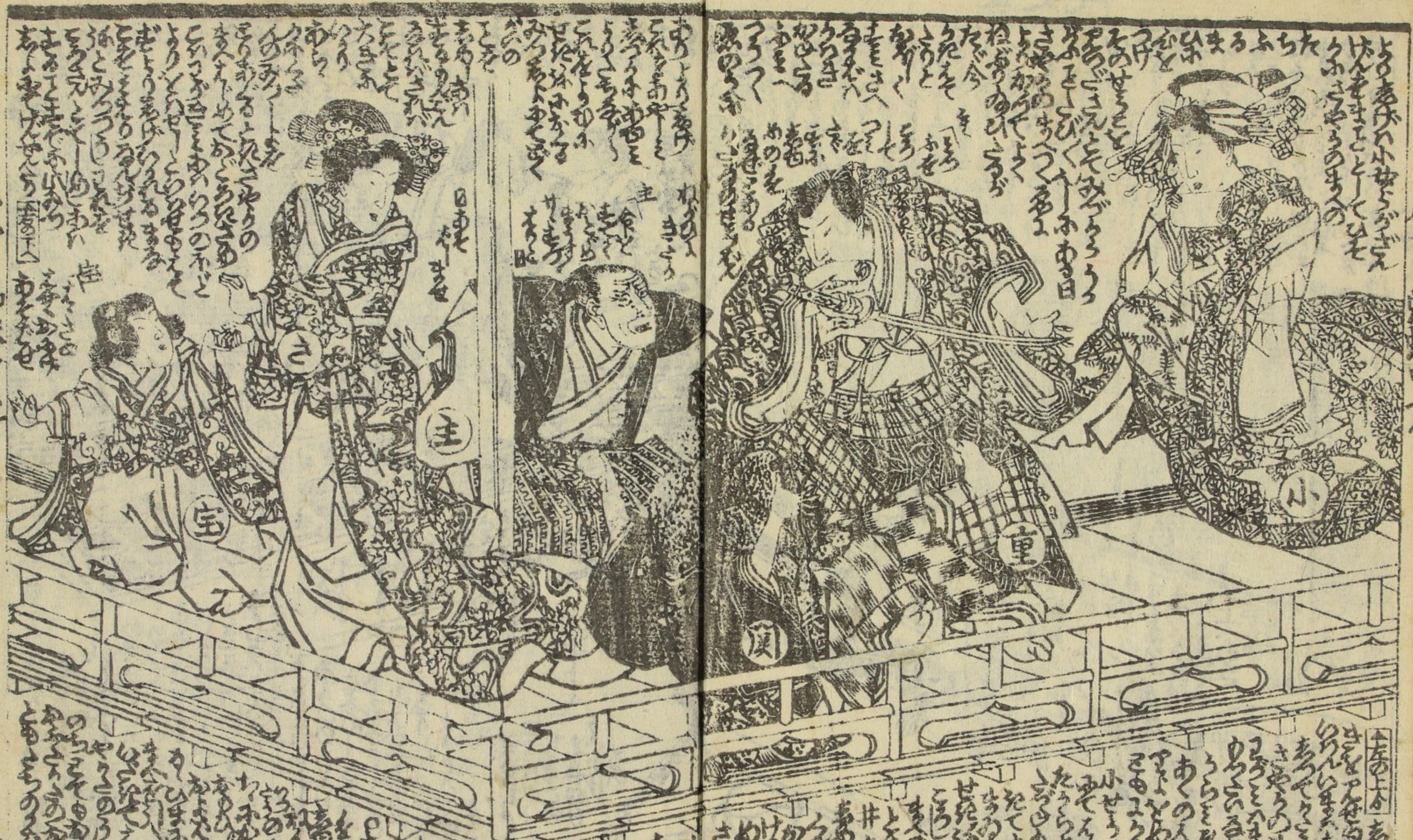
さやりのまへより...  
あつた山八...  
さかひ...  
かひ...  
と...  
ね...  
お...  
を...  
の...

あつた山八...  
さかひ...  
かひ...  
と...  
ね...  
お...  
を...  
の...

あつた山八...  
さかひ...  
かひ...  
と...  
ね...  
お...  
を...  
の...

あつた山八...  
さかひ...  
かひ...  
と...  
ね...  
お...  
を...  
の...

あつた山八...  
さかひ...  
かひ...  
と...  
ね...  
お...  
を...  
の...



よのあけの小枝うがきえ  
はんをまことしくしそ  
くふらあまのまへの

そのせきと  
あまのこえをみくらう  
さあまのこえをみくらう  
さあまのこえをみくらう  
さあまのこえをみくらう

あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう

あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう

あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう

よのあけの小枝うがきえ  
はんをまことしくしそ  
くふらあまのまへの

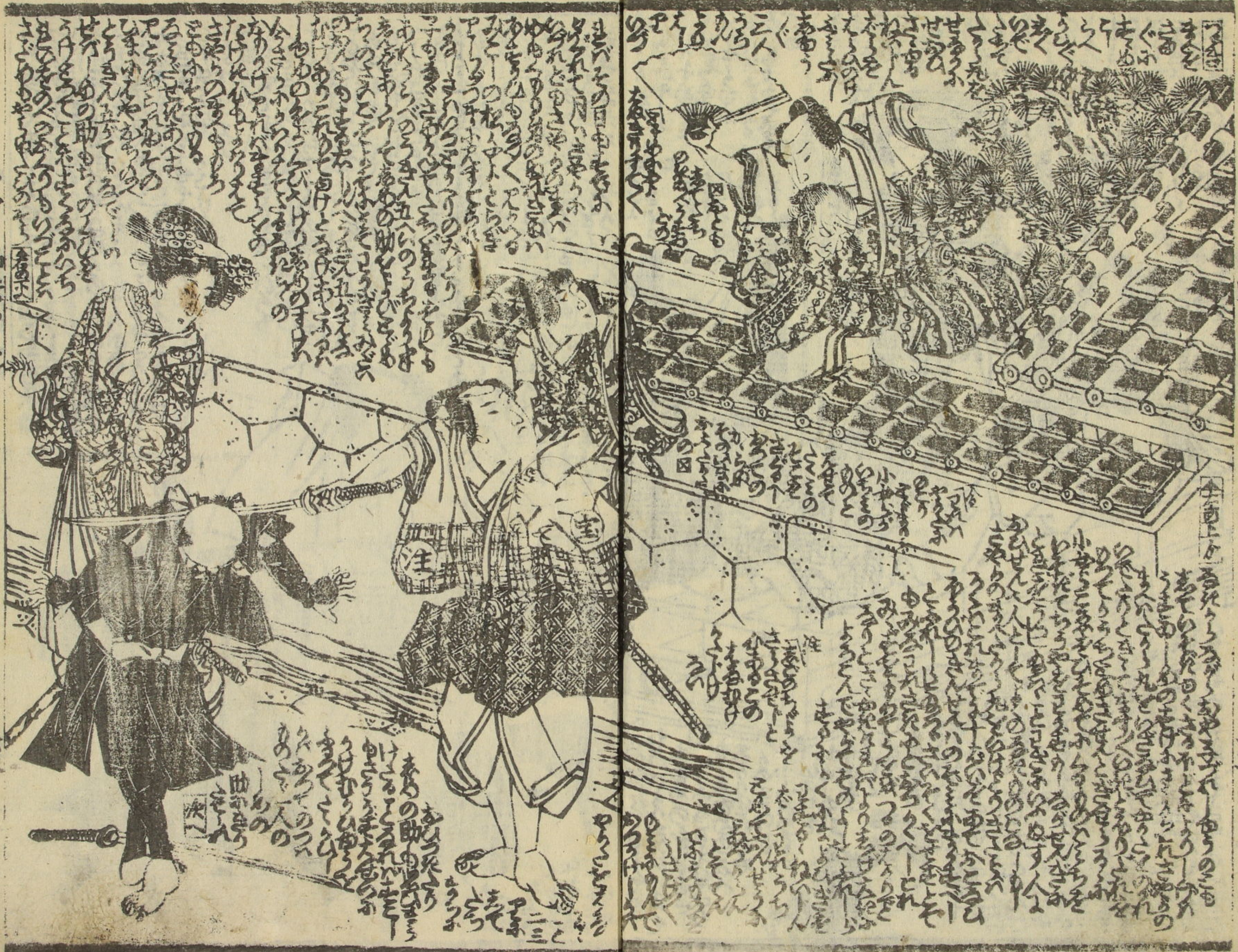
そのせきと  
あまのこえをみくらう  
さあまのこえをみくらう  
さあまのこえをみくらう  
さあまのこえをみくらう

あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう

あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう

あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう  
あまのこえをみくらう





Handwritten Japanese text in vertical columns, located in the upper left quadrant of the page. The text is dense and appears to be a commentary or a scene description related to the illustration.

Handwritten Japanese text in vertical columns, located in the upper right quadrant of the page, above the seated figures. The text is dense and appears to be a commentary or a scene description related to the illustration.

Handwritten Japanese text in vertical columns, located in the lower left quadrant of the page, below the standing figures. The text is dense and appears to be a commentary or a scene description related to the illustration.

Handwritten Japanese text in vertical columns, located in the lower right quadrant of the page, below the seated figures. The text is dense and appears to be a commentary or a scene description related to the illustration.









おのゝとあつて  
あつておのゝとあつて  
おのゝとあつて  
あつておのゝとあつて  
おのゝとあつて  
あつておのゝとあつて



おのゝとあつて  
あつておのゝとあつて  
おのゝとあつて  
あつておのゝとあつて  
おのゝとあつて  
あつておのゝとあつて

おのゝとあつて  
あつておのゝとあつて  
おのゝとあつて  
あつておのゝとあつて  
おのゝとあつて  
あつておのゝとあつて

おのゝとあつて  
あつておのゝとあつて  
おのゝとあつて  
あつておのゝとあつて  
おのゝとあつて  
あつておのゝとあつて













五ノ...

この...

...

...

...



...

...

...

...

...



源氏物語の一場を写したと思われる文章。右側に「源」という字が記されている。内容は源氏物語の一場を写したと思われる文章。右側に「源」という字が記されている。内容は源氏物語の一場を写したと思われる文章。右側に「源」という字が記されている。



源氏物語の一場を写したと思われる文章。右側に「源」という字が記されている。内容は源氏物語の一場を写したと思われる文章。右側に「源」という字が記されている。内容は源氏物語の一場を写したと思われる文章。右側に「源」という字が記されている。





此の世に生きたるもの多し  
其の内に小生も在り  
日と夜とをわかれ  
あんなの世にあんな  
ことろに生きたるもの  
多し  
その中に小生も在り  
日と夜とをわかれ  
あんなの世にあんな  
ことろに生きたるもの  
多し  
その中に小生も在り

山姥蜘蛛  
この世に生きたるもの  
多し  
其の内に小生も在り  
日と夜とをわかれ  
あんなの世にあんな  
ことろに生きたるもの  
多し  
その中に小生も在り

山姥蜘蛛  
この世に生きたるもの  
多し  
其の内に小生も在り  
日と夜とをわかれ  
あんなの世にあんな  
ことろに生きたるもの  
多し  
その中に小生も在り

山姥蜘蛛  
この世に生きたるもの  
多し  
其の内に小生も在り  
日と夜とをわかれ  
あんなの世にあんな  
ことろに生きたるもの  
多し  
その中に小生も在り

山姥蜘蛛

四十四

























士之卷



小女と蜘蛛

「小女と蜘蛛」の物語は、山崎闇斎の『浮城物語』に由来する。小女は、山崎の娘で、蜘蛛の精と化して、闇斎を苦しめる。闇斎は、小女を救うために、山崎の墓を訪れ、蜘蛛の精を退治する。この物語は、江戸時代中期に流行した怪談である。この挿絵は、闇斎と小女が山崎の墓を訪れる場面を描いている。闇斎は、小女を助けようとするが、蜘蛛の精の力によって、闇斎は苦しむことになる。この挿絵は、闇斎の苦悶と小女の悲しさを表現している。



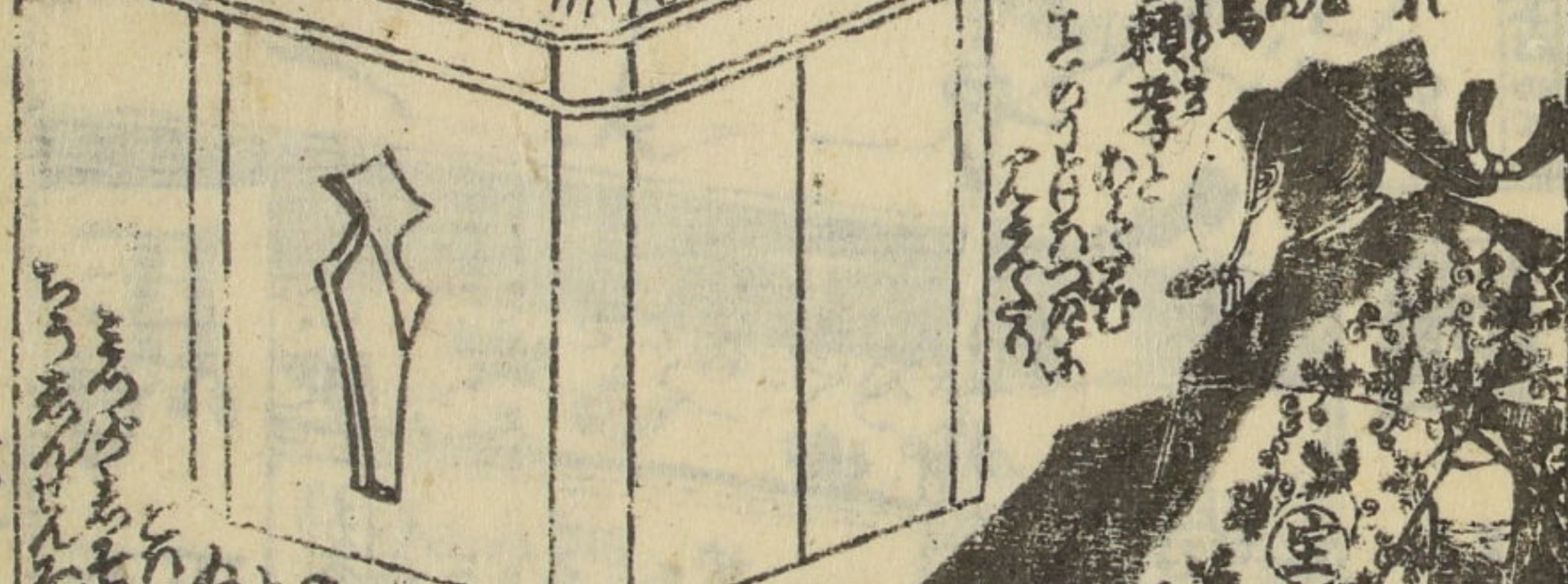
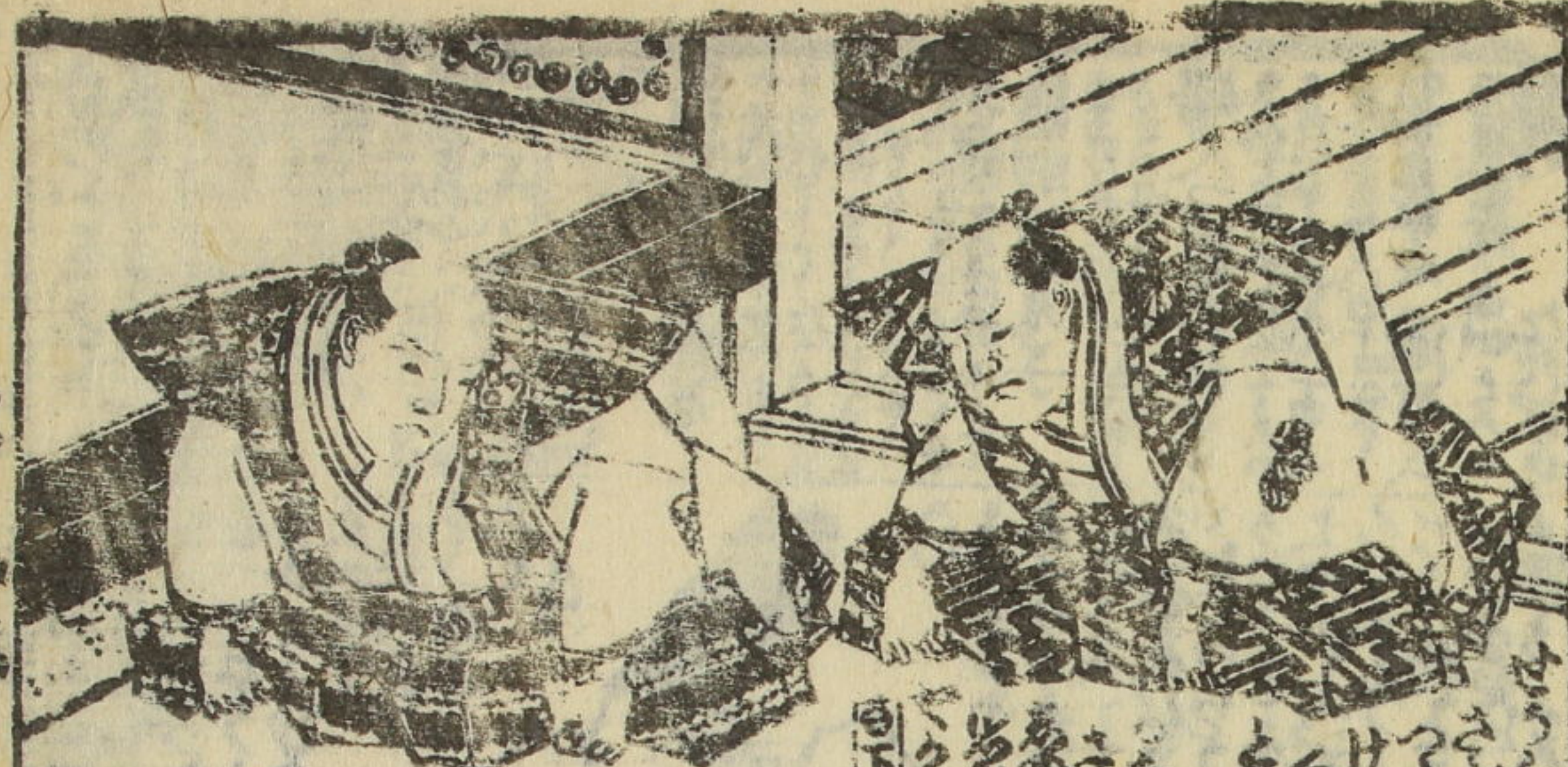
「小女と蜘蛛」の物語は、山崎闇斎の『浮城物語』に由来する。小女は、山崎の娘で、蜘蛛の精と化して、闇斎を苦しめる。闇斎は、小女を救うために、山崎の墓を訪れ、蜘蛛の精を退治する。この物語は、江戸時代中期に流行した怪談である。この挿絵は、闇斎と小女が山崎の墓を訪れる場面を描いている。闇斎は、小女を助けようとするが、蜘蛛の精の力によって、闇斎は苦しむことになる。この挿絵は、闇斎の苦悶と小女の悲しさを表現している。

「小女と蜘蛛」の物語は、山崎闇斎の『浮城物語』に由来する。小女は、山崎の娘で、蜘蛛の精と化して、闇斎を苦しめる。闇斎は、小女を救うために、山崎の墓を訪れ、蜘蛛の精を退治する。この物語は、江戸時代中期に流行した怪談である。この挿絵は、闇斎と小女が山崎の墓を訪れる場面を描いている。闇斎は、小女を助けようとするが、蜘蛛の精の力によって、闇斎は苦しむことになる。この挿絵は、闇斎の苦悶と小女の悲しさを表現している。

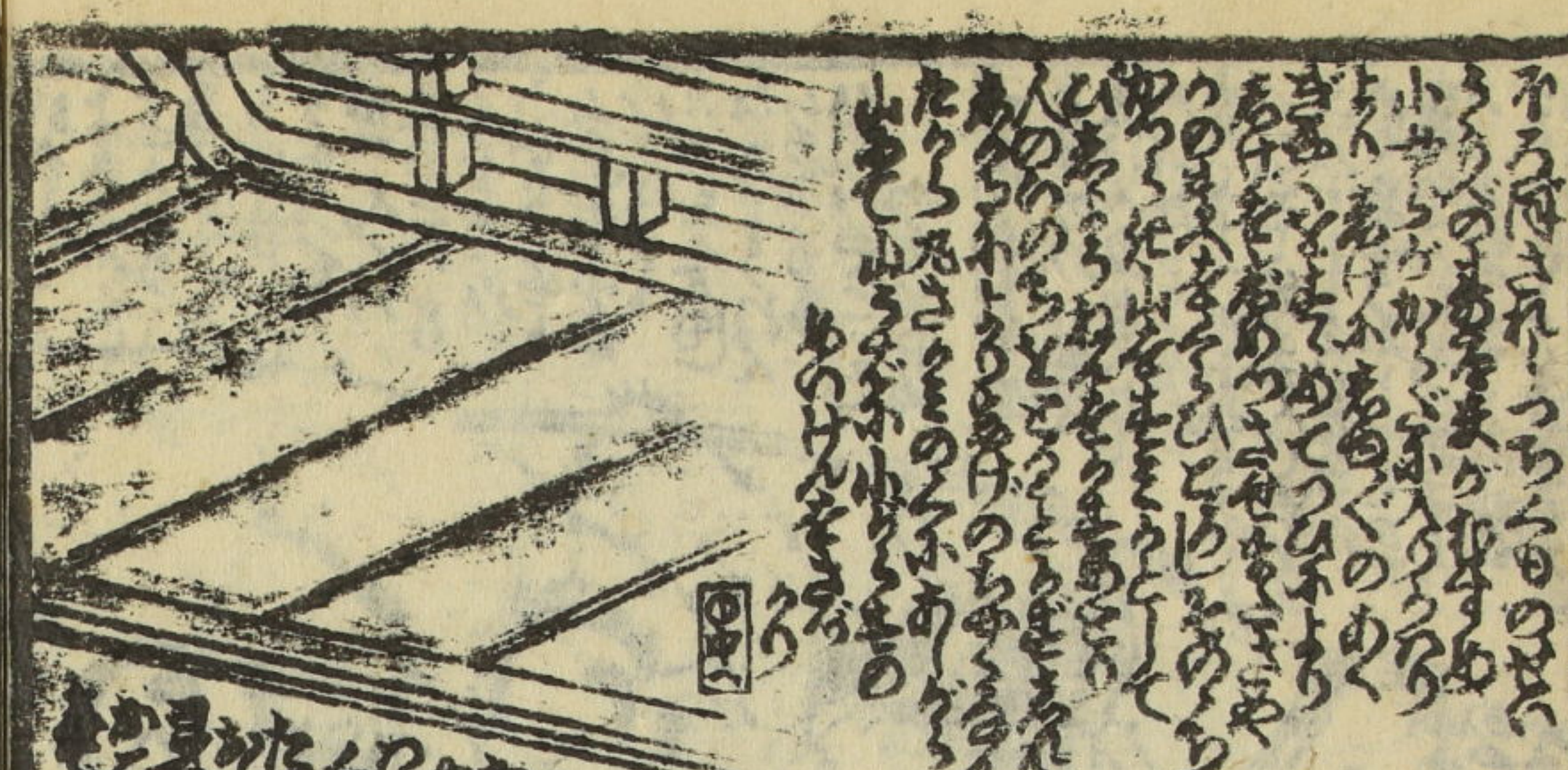




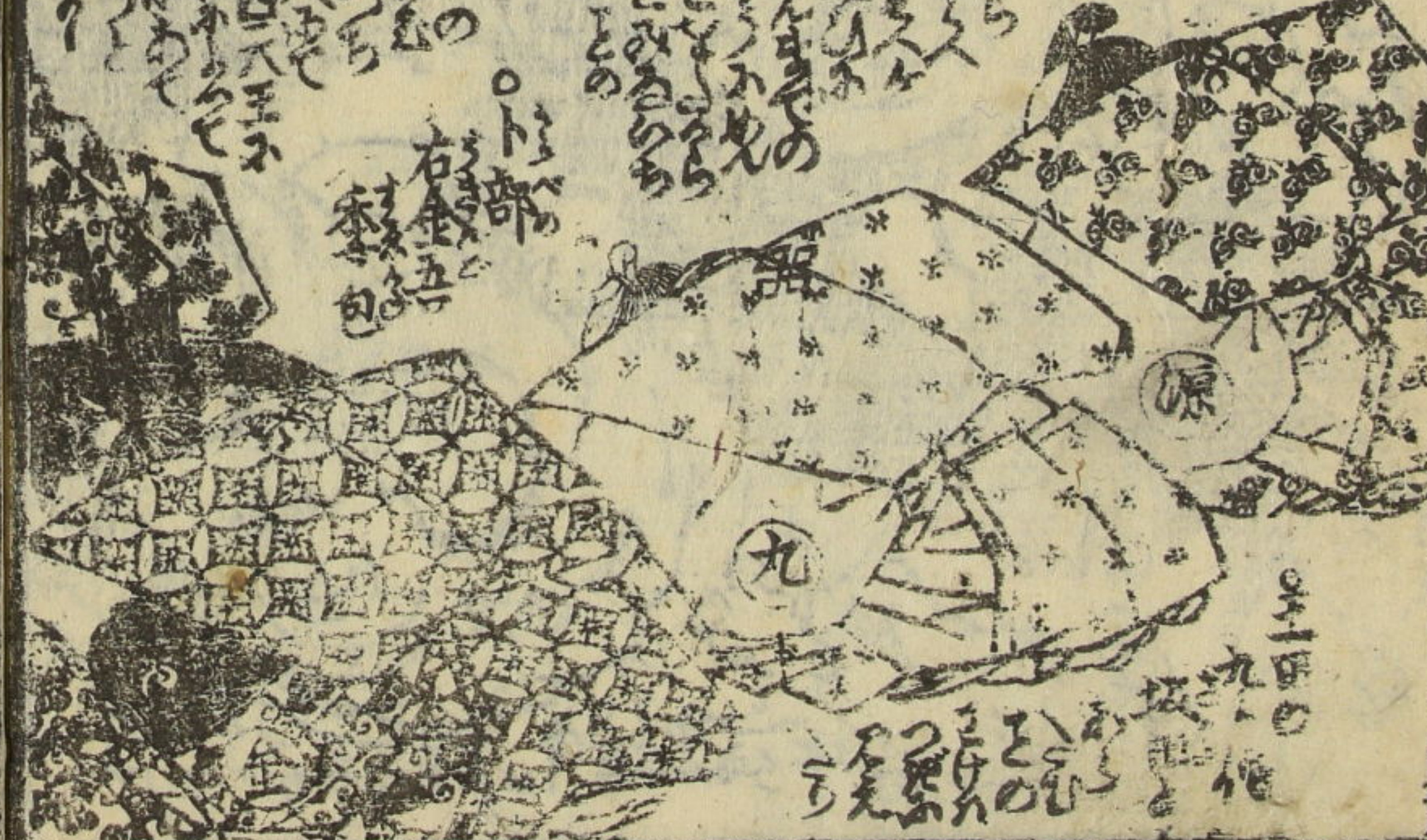




Text block at the bottom left of the page, containing several lines of vertical Japanese text.



Text block at the top right of the page, containing several lines of vertical Japanese text.



Vertical text on the right edge of the page, likely serving as a page number or a title.

のりどもあるりたり...  
まをひきつれり...  
うけつることを...  
のたは他は...  
五...  
をへ...  
る...  
まの...  
と...  
と...  
は...  
か...  
は...

神傳神は湯  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...

能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子

能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子  
能胆黒九子



山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...

馬  
琴  
作

山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...

國  
芳  
曲

山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...  
山...



大町右衛門左衛門

延享五年八月

精用